(3) ＮＲＴ（教研式・全国標準診断的学力検査）の実施・分析

ア　実施期日

○　１回目　平成　９年　６月　（１年生国語・数学、２・３年生３教科）

○　２回目　平成１０年　１月　（全学年３教科）

イ　分析結果の考察（１回目と２回目を比較して～抜粋～）

・　１年生国語科⇨　「理解力」「言語力」が落ち込んでいる。特に説明文の構成，要点，要旨などをとらえる力が不足している。

・　２年生数学科⇨　「不等式」「連立方程式」「数の表現方法と数の使用」が落ち込んでいる。計算力の向上を目指し、毎時間、計算問題練習を実施していく必要がある。

・　３年生英語科⇨　「聴く」「話す」「読む」分野は、ほぼ全国平均にある。「書く」こと、特に語順（並びかえ）を不得手としている。３年間のまとめとして復習を行いたい。

(4) 学習に関する調査の実施・分析

ア　実施期日

○　１回目　平成　９年　６月

○　２回目　平成１０年　１月

イ　分析結果の考察例

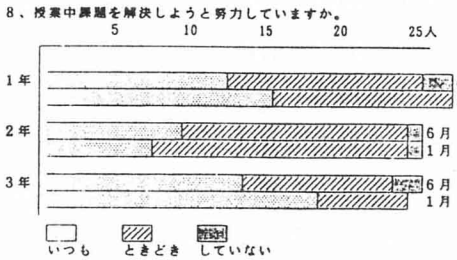
・　生徒用、教師用⇨右側の資料参照

・　保護者から学校に寄せられた、学力向上に関する意見・要望（一例）

※　業者の教材を買ってあげたり、学習塾に通わせてあげたほうがよいのでしょうか？そうでなければ、教科書に沿った問題集など買ってあげたいとは思っています。自分の好きな教科は進んで勉強するようですが、苦手教科については、どのようにすればよいでしょうか。

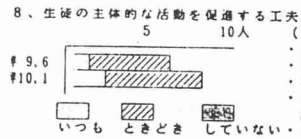
（１年保護者）

《　生徒用アンケート分析結果より　》



（考　察）
全体として課題解決のために努力しようとする態度がさらに向上した。
教師の支援、奨励の効果が生徒の自力解決に向けて努力しようとする態度に結びついている。

《　教師用アンケート分析結果より　》



（具体例）
・学期１～２回スピーチ活動を実施している。
・実験、発表、班での話合い活動、進度別問題。
・学習ノートなど教科書を調べてまとめさせている。
・なるべく個性を引き出せるように生徒主体の制作活動を行っている。
・グループ学習を取り入れ促進している。

(5) 広報紙の発行

年３回発行し、学校における基礎学力向上の取り組みについて、家庭への啓蒙を図った。

《　第　３　号　》

黄金の時

いわき市立三和中学校
学校だより　No. 3
発行責任者　校長　鈴木英雄

寒さも峠を越し、今年もあとわずかとなりました。

保護者の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び、心よりお喜び申し上げます。

11月16日に開催されました学校祭では、テーマ「最大なる一歩」を掲げ、展示でそれぞれの個性を発揮し、新鮮的なものをつくりあげました。また合唱コンクール、スポーツ・レクリエーションでは、各学年とも声高らかに、息をそろえ、皆びとつになりがんばりました。これも保護者の皆様のご協力のお陰と思っております。

「基礎学力の向上を図る授業改善の工夫」をテーマにした本校の研究実践について

本校は、市教育委員会より平成９年度から研究実践校の指定を受け、全職員が「新しい学力観」に基づいた授業を模索し、全教科の基礎学力の定着、向上を目指して取り組んでいます。特に、研究授業や自校プランの作成から、学力向上のための方策の研究を行い、幸いに成果が現れつつあります。

また、この研究は、基礎学力の研究ではなく、基礎学力向上の推進事業、つまり実践が 最重要である。を合言葉に全職員が自校プランに基づいた取り組みを行っています。この研究実践は、３教科（国語・数学・英語）を対象としていますが、他教科の教員の協力も不可欠であるという観点から自校プランの中に学校全体で取り組む「学力向上タイム」を設け、全教科の学力の補充、深化を図っています。

授業外支援の一例

◎学力向上タイム

「学力向上タイム」では、毎週月曜日の放課後３０分間を全教師が分担し、３教科を中心とした学習を行っています。おもに前年で学習したものなど、忘れてしまっているようなものも含め、基礎的・基本的事項の確認問題を行っています。国語は漢字・数字は計算、英語は単語などです。また、できなかったところをチェックし、復習するようにしています。

「学力向上タイム」を続けてみて
３年　吉田かおり

私たちは今年から、国語、数学、英語の学力向上タイムを受けることになりました。

この学力向上タイムのよいのは、それぞれの教科の基礎が身につくことです。特に私は、国語の漢字が勉強不足だったことに気づきました。国語は漢字の読み書き、同音異義語、対語、類義語のプリントを行います。私はそのＯＫの同音異義語があまりできませんでした。しかし、学力向上タイムを受けて、それを復習し、またたくさんの言葉を覚えることができました。数学の計算問題は私の得意分野なので、今までよりもさらに力が伸びていると思います。英語は、忘れていた単語を覚え直すことができました。

これからの学力向上タイムでは、応用問題を少しずつ加えていってほしいと思います。数学の図形の問題や英語の長文読解、国語の文法などいろいろな問題を解いて、力をのばしていきたいです。また、来年からは様々な社会を取り入れてほしいです。そうすればきっと、すべての教科の力がアップすると思います。そして、私たちは先生方に感謝するとともに、自分たちの学力向上のために努力しなければならないと思います。

◎１分スピーチ

帰りの学活では、表現力を身につけるために「１分間スピーチ」を行っています。

普段の生活の中から気付いたことやニュースなどで話題になっていることなど、個性あふれるスピーチが発表されています。

「１分間スピーチ」をはじめてみて
２年　高谷　潤

１分間スピーチというのは、「私的な体験」をみんなに話すことによって、コミュニケーションを図り、お互いを理解し合うことが目的だと思います。

このような１分間スピーチにしていくためには、どのようなテーマにするかが大切だと思います。

僕の場合は、まずみんなをおもしろくしようという気持ちがあり、それにあったテーマはないかと考えます。そしていいテーマが見つかると、文の内容など、イメージをふくらませていきます。

１分間スピーチは、何気なくやっているようで、本当は重要なことをしていると思います。それは、作文と同じようなことをしているので、表現力など、たくさんのことが得られるからです。だから１分間スピーチが自分の語にさせたからといって、いやになるのではなく、しっかりと考え、身近なことが表現力につながるのだと考えて、自分に回ってきたチャンスを無駄にしないようにしたいと思います。

貴　帰　り（１分間スピーチより）
１年　菊水千恵子

11月11日の新聞を見たら、そこには大きい文字で「父の墓地・あふれる涙」という言葉が書かれていました。それはニュースで毎日のようにやっている、北朝鮮から帰ってきた日本人の女性たちの記事でした。

私は、新聞記事で、女の人が涙を流しながらお墓参りをしているところを見て、「本当に日本に帰りたかったんだな」と思いました。ニュースを見ていると日本に帰れなかった人たちはまだ何百人もいるということです。私は、その人たちが全員にここに日本に帰ってきてほしいと思います。そしてはやく笑顔が見たいと思います。

しかし、１つだけ残念なことがありました。ニュースを見ていると、北朝鮮にのこった女の人たちのことを、（はじ）ずかしい所の人が思っていることです。いくら北朝鮮系国籍なことだとしても、同じ日本人であれば差別などはしないと思います。いまは、日本でも外国人を差別しています。はやくそういうことをなくしてほしいと思います。新聞に少し書いてあったこの記事が、私たちに大きなことを教えてくれたと思います。

今　後　の　課　題

基礎学力を向上させるためには、授業の充実に加えて日常指導の充実も大切です。

現在、学校で実践している内容を再検討し、加筆修正をしたり、授業と有機的に結合を図ったりして、よりよい日常指導に改善していきたいと思います。

なお、学力向上に向けた課題の解決にあたっては、各家庭での協力も不可欠です。特に家庭学習の内容を授業で計画的に生かすようにするなど家庭学習の習慣化を図り活動を一層充実させる必要があります。計画的・継続的な家庭学習により、学習が習慣化し主体的な学習態度が育成されます。ご家庭のご協力をぜひお願いします。

（文責　調査研究部）

3　第１年次の成果と２年次への課題

(1) 成果

ア　単元で育成したい基礎学力が明確になり、単位時間毎の基礎・基本を的確に押さえながら、生徒の思考力、判断力、表現力を生かした連続性のある授業が展開できるようになった。